

東北地方の民家を中心として



層雲(青森県北津軽郡市浦村脇元) 1964年

1997年10月4日(土)—12月23日(火)

開館時間—午前10時—午後6時(入館は5時30分まで)

休館日—毎週月曜日(休日にあたるときは翌日)

観覧料—一般200円(160円) 大高生150円(120円) 中小生100円(80円)

()内は20名以上の団体料金 65歳以上及び障害者の方100円(80円)

世田谷美術館分館

向井潤吉アトリエ館

〒154 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL.03-5450-9581

沢内村六月(岩手県和賀郡沢内村) 1988年

向井潤吉—みちのくの自然と民家—展



このたび向井潤吉アトリエ館では、向井先生が東北地方で取材された作品を中心とした、「向井潤吉ーみちのくの自然と民家ー」展を開催いたします。

東北地方はこの10数年のあいだに、新幹線や高速道路の整備によって、首都圏からの利便も良くなり、またリゾート地の開発やスキーブームなどの影響もあって、それぞれの主要地域のみならず、いわゆる山間部にいたるまで、人の出入りが増えるようになりました。

交通網の整備と発達、そしてさまざまな開発事業は、私たちの日常生活にたいして、多大な利便性をもたらし、またそれぞれの地域においては、地場産業や観光事業の発展、また新たな産業の振興に貢献をしてきたことは事実です。

しかし、そのいっぽうでは、自然のままにあった山河や原野を開拓することで、自然環境にいちじるしく変化を与え、ありのままの自然景観はその姿を変えていきました。

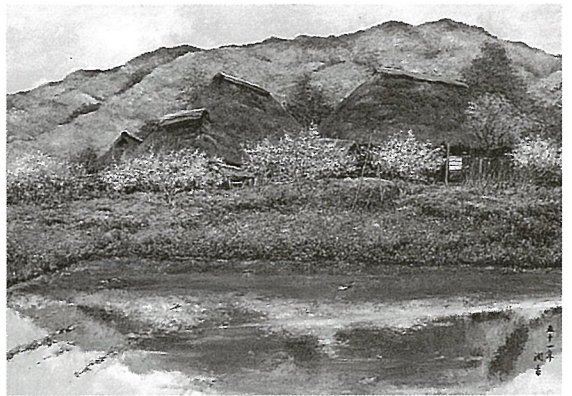
当然のように、自然環境の変化は、それぞれの土地で生活する人たちに、そして動植物にも大きな影響を与え、たんに開発の弊害としてだけでは片付けられない、深刻な諸問題を引き起こしてきました。

戦後間もない頃から、向井先生は草屋根の民家を描き始め、当時は戦後の荒廃から立ち直っていくために、国内では鉄道を中心とした交通網の整備が進み、その進展とともに、先生の民家を求める旅の行動半径も広がっていきました。

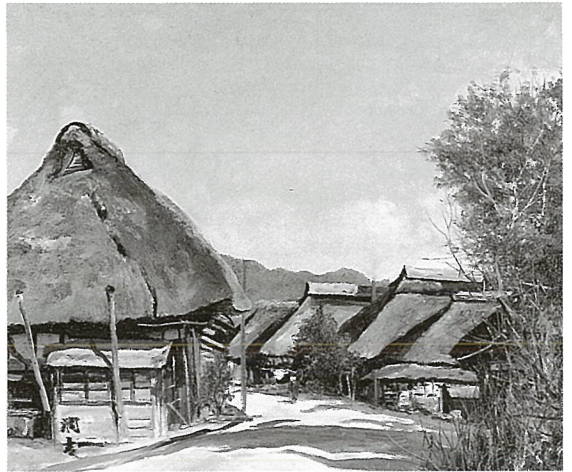
先生の遺された制作日誌を見てみると、東北地方への取材旅行の多さが、とりわけ目をひきます。特に昭和30年代から50年代にかけては、岩手県、山形県、秋田県へほぼ毎年のようにキャンバスを携えて旅し、四季のそれぞれが醸し出す美しい自然の中で、自然の節理とともに星霜を重ねてきた民家の姿を、先生は描かれてきました。

先生の遺された作品のそれぞれは、一見、草屋根の民家をモチーフとした、叙情的な作風と見られがちですが、それらの画面には、人々の生活の場となった民家と、それぞれの土地のありのままの自然と風土が、写実性の高い表現によって、的確に描きとめられています。

日本の伝統的な草屋根の民家が、人が自然と共生していくために重要な役割を果たしてきたことは、作品の中に描かれた民家それぞれが、何よりも雄弁に物語っており、同時に、今回の展覧会では、“みちのくの自然と生活”にも、作品の一つ一つを通じてふれていただけるものと思います。



春映(岩手県上閉伊郡宮守村) 1976年



旧関旗宿(福島県白河市旗宿) 1972年



風と砂の村(青森県北津軽郡市浦村十三) 1964年



野分けのあと(岩手県和賀郡東和町) 制作年代不詳



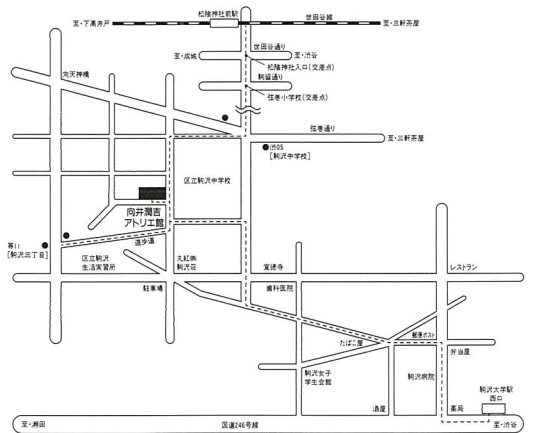
山形県東北 制作年代不詳



津軽松神部落にて(青森県西津軽郡岩崎村松神) 制作年代不詳



田麦俣の女(山形県東田川郡朝日村田麦俣) 1965年



●最寄り交通機関のご案内

東急新玉川線【駒沢大学】駅西口 下車/徒歩10分

東急世田谷線【松陰神社前】駅 下車/徒歩17分

東急バス(渋05) 渋谷～弦巻営業所 【駒沢中学校】 停留所下車/徒歩3分

東急バス(等11) 祖師谷折返所～等々力 【駒沢三丁目】 停留所下車/徒歩3分

東急バス(渋11) 渋谷～田園調布 【駒沢大学駅前】 停留所下車/徒歩10分

東急バス(渋13) 渋谷～砧本村 【駒沢大学駅前】 停留所下車/徒歩10分

世田谷美術館分館
向井潤吉アトリエ館
〒154 東京都世田谷区弦巻2-5-1
TEL 03-5450-9581